大阪維新の会市議団条例案「愛着不足が誘発」撤回

発達障害 育て方原因でない

広島の支援センターであらためて学ぶ

橋下徹大阪市長が率いる大阪維新の会大阪市議団が議会提出を撤回した「家庭教育支援条例案」。「乳幼児期の愛着形成の不足が軽度発達障害またはそれに似た症状を誘発する大きな要因」と明記した原案は、先天的な脳の機能障害である「発達障害」への無理解をあらわにした。広島市発達障害者支援センター（東区）であらためてこの障害について学んだ。（森田裕美）

「発達障害は先天的な脳の機能障害。親の育て方やしつけが原因ではない」。同センターの小森田真相談員は説明する。

欧米の研究者によって発達障害の一つである自閉症などが報告されたのは1940年代で半世紀以上前。しかし、コミュニケーションが苦手だったり、ある行動に強いこだわりがあったりなど、障害の特性が外見や短時間の交流からは分かりにくいこともあって、いまだに十分な理解が進んでいない。

子どもの場合は「わがままだ」「しつけが悪い」などと誤解されやすい。多くの当事者や家族が偏見に苦しんできた。

脳の機能障害

外見から分かりにくく

早期発見・支援

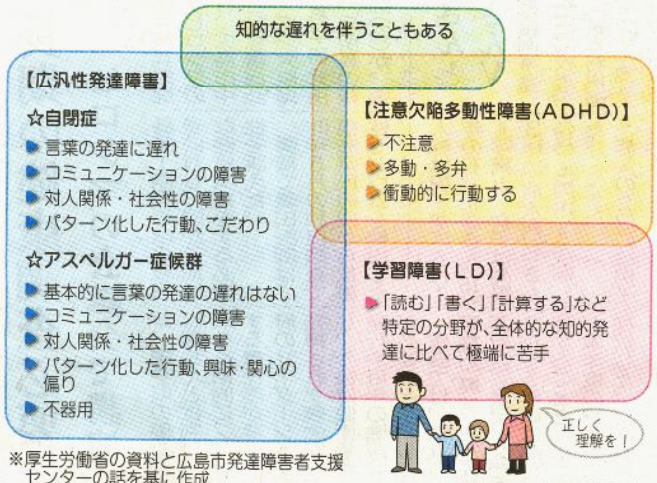
周囲の理解 自立に必要

発達障害は、早期に発見し適切な支援を始めることで、学校や社会での生きづらさを軽減し、将来の自立や生活の質を高めることができる。

「親のしつけのせい」「本人が怠けているせい」などと誤った見方をすると、本人や家族の支援を妨げるばかりか、精神的にも深く傷つけてしまう。うつ病など二次的な精神疾患につながるケースも少なくない。

センター長の大澤多美子医師（精神科）は「発達障害を周囲が正しく理解し、早期から支援することが何より大切」と強く訴えている。

発達障害の特性



※厚生労働省の資料と広島市発達障害者支援センターの話を基に作成

グラフィック・大友勇人

三つの分類

程度や症状 人それぞれ

2005年施行の「発達障害者支援法」は、発達障害を「自閉症やアスペルガー症候群その他の広汎性発達障害」「注意欠陥多動性障害（ADHD）」「学習障害（LD）」の大きく三つに分類する。

広汎性発達障害は、自閉症とアスペルガー症候群などが知られている。

自閉症は言葉の発達の遅れ▽コミュニケーションや対人関係の困難さ▽パターン化した行動やこだわりーなどの特性がある。

目に見えないものを理解するのが難しく、予期せぬ出来事が起こると混乱する。例えば、いつも通る道が工事中で別の道に回ると癇癪を起こす人も。また興味のあることには深い知識を持つケースが多い。

アスペルガー症候群は、言葉の発達に著しい遅れはないが、言外の意味のくみ取りや他人の表情、前後の脈絡を読むのが苦手。「まっすぐ帰りなさいね」と言われると「まっすぐ帰るとビルにぶつかってしまう」と答える人もいる。

ADHDは、不注意や多動、衝動性を主な特徴とする障害で、忘れ物をしたりじっと着席できなかったり。感情のコントロールも不得意な面がある。LDは、読む、書く、計算するなど特定の分野に明らかな困難さがあり「要領が悪い」「努力が足りない」と言われがちだ。

これらの障害に似た脳機能障害も発達障害とされ、複数が重複するケースもある。障害の程度や症状も人それぞれだ。